地域学習での学校と地域の連携における可能性と課題

―鹿児島県三島村立三島小中学校を事例に―

竹田　美玲

Ⅰ．はじめに

小学校第３学年および第４学年の社会科は，身近な地域の学習（地域学習）が中心となっている。その目標の中には「（１）地域の産業や消費生活の様子，人々の健康な生活や良好な生活環境および安全を守るための諸活動について理解できるようにし，地域社会の一員としての自覚を持つようにする」,「（２）地域の地理的環境，人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし，地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする」[1)] が挙げられている。子どもたちに「地域社会の一員としての自覚」を持たせ,「地域社会に対する誇りと愛情」を育てるためには，地域学習は学校だけではなく，地域社会との関わりの中で行われることが求められよう。また，社会科以外において行われる地域学習であっても，学校と地域とが関わり合うことによって，子どもの学習活動を充実させることにつながると言えるだろう。

学校と地域の連携を扱った研究は，学校経営や，社会教育・生涯学習の文脈では，多くみられる。例えば，玉井（2002）は，地域の特色を生かした「総合的な学習」を展開するために,多様な地域人材を生かすことによる教育課程の充実や,「地域づくり」をテーマとし，児童生徒が地域に貢献することといった地域との密接な関係の必要性を指摘した[2)]。

一方で，地域学習に関する先行研究には，中学校社会科地理的分野の教科書を分析することを通して当時の「身近な地域」の学習の状況を把握し，その改善を提案した澁澤（1998）など，地域学習での学習内容に焦点を当てたものが多く，地域社会との関わりに焦点を当てたものはあまり見受けられない。その中で，篠崎（2012）は地域と連携した地域学習を対象とした研究を行っている。愛媛県松山市野忽那小学校で行われた「人や地域とのかかわりあい」に基づく地域学習について，それが実践されるに至った理由やその特質を検討することを通して，実態を明らかにした。しかし，地

域学習における学校と地域との関わりそのものに焦点が当てられている研究ではない。

そこで，本研究では学校と地域の連携が地域学習にもたらす可能性と課題を明らかにすることを目的とする。この目的を達成するため，学校と地域との結びつきが強いと考えられる離島地域に着目し，事例として鹿児島県三島村立三島小中学校を取り上げる。

本稿は，以下の手続きによって上記の目的を達成することを目指す。

まず第Ⅱ章において，鹿児島県三島村立三島小中学校における地域学習，およびそこでの学校と地域との連携の在り方を，三島小中学校の指導計画，そして教員および住民に対して行ったインタビュー調査の結果をもとに明らかにする。

第Ⅲ章では，児童生徒が持つ地域学習に対する認識を，小学校 5 年生から中学校 3 年生までの児童生徒を対象に行った質問紙調査をもとに明らかにする。

第Ⅳ章では，第Ⅱ章および第Ⅲ章を承けて，学校と地域との関わりという視点から，三島小中学校における地域学習の可能性と課題について考察する。

なお，本研究において，地域学習は社会科のみならず，学校教育全体で実施される身近な地域についての学習を指すものとする。

Ⅱ．三島小中学校における地域学習

１．鹿児島県三島村立三島小中学校の概要

三島小中学校における地域学習の実態を捉えるにあたって，まず鹿児島県鹿児島郡三島村硫黄島および三島小中学校ついてその概要を示す。

鹿児島県鹿児島郡三島村は，薩摩半島の南西に位置する竹島，硫黄島，黒島の 3 島からなる村である。週 3 回，鹿児島港と 3 島を結ぶ村営のカーフェリーによって，本土との行き来ができる。硫黄島は 2019 年 7 月 1 日現在，世帯数 60，人口 121 となっている[3)]。

硫黄島に位置する三島小中学校は，児童生徒数が 20（2018 年 9 月 3 日現在），教職員数は 15（2018 年 11 月 3 日現在）でそれぞれ内訳は第 1 表および第 2 表に示すとおりである[4)]。

三島小中学校では，「平成 30 年度　三島小中学校　学校経営グランドデザイン」の中で，「目指す学校の姿」として「保護者や地域と固く結ばれた学校」を掲げている。また，特色ある教育活動として，「地域の豊かな自然や異年齢集団を生かした体験活動」や，「郷土を知り郷土に学ぶ活動」として，地域について知る活動や地域の行事等に参加する活動が行われている。このような点から，三島小中学校では地域と関わりを持った教育活動に熱心に取り組んでいると言えるだろう。

第１表　三島小中学校学年別児童生徒数

	小学校						中学校			
学年	1	2	3	4	5	6	1	2	3	合計
学級数	1		1		1		1	1	1	7
児童生徒数	3	3	3	5	2	1	1	1	1	20

（学校提供資料より筆者作成）

第２表　三島小中学校教職員数

	校長	教頭	教諭	養護教諭	事務主幹	栄養教諭	用務員	調理員	小計
三　島小			4	1	1		1	1	8
三　島中	1	1	4			1			7
									合計15

（学校提供資料より筆者作成）

２．指導計画上の地域学習の位置づけ

三島小中学校では，身近な地域の学習に関する計画を，「郷土教育全体計画」として設定している。「郷土教育全体計画」は，郷土教育の目標や郷土教育の主な活動が記されている「（１）全体計画」，そして各学年における郷土教育に関連する各教科の単元が示されている「（２）教科との関連」からなっている。

この中で，「郷土教育の主な活動」に「地域への参加」として，地域が主体となる行事に児童生徒が参加する活動が位置付いている点が注目に値する（第１図）。教科等に位置付く活動の中には，地域との連携が必ずしも必要でないものが少なくない。しかしながら「地域への参加」は学校と地域が連携することが不可欠なものである。

また，学校と地域が連携する場面としては，産業に関する学習，観光に関する学習，伝統行事に関する学習の３点についてインタビューの中で指摘があった。

１点目の産業に関する学習としては，畜産業，漁業に関する学習や，地域の産物であるタケノコ，ツバキに関する体験的な活動における連携がある。この一環として，小学校３年生社会科の島の産業に関する学習では，児童は住民の牧場の見学を行った。

郷土教育のおもな活動

教　　科	道　　徳	総合的な学習の時間	特別活動	地域への参加
国語…作文，生活文，記録文，随筆，感想文，詩，俳句、スピーチ 社会…「私たちの三島村」で自然・産業・歴史・気候等の学習・鹿Ｊｒ検定 理科…動植物・気候・地層・岩石の学習 生活…郷土の自然・社会に親しみ自分を見つめる学習 音楽，総合…地域の歌やジャンベ演奏 図工，美術，技術…地域の素材や文化を元にした表現 体育…カヤック体験	指導内容との関連で教材発掘 ・郷土愛 ・愛国心 ・国際理解，人間愛 ・友情，信頼 ・勤労，社会福祉，公の福祉 ・正義，公正，公平，社会連携 ・役割と責任の自覚 ・自然愛，畏敬 ・人間愛，感謝，思いやり	子供ガイド育成への取り組み ○地域の自然，特産物，施設，行事等を調べる活動。 ○地域の方に話を聞いたり，講話を聞いたりする活動 ○地域のよさを伝える活動 ○地域の自然や素材をつかった体験活動 テーマに沿った活動 ○地域の自然，歴史等について調べ，発信する活動。	児童生徒会活動： 委員会活動，全校朝会，学部朝会，全校集会などを通して実施 学校行事： ○避難訓練 ○集団宿泊学習 ○運動会 ○文化祭 ○持久走大会 ○職場体験 行　事　等 ○郷土の特産品の収穫（椿の実拾い） ○花壇づくりと栽培 ○史跡めぐり ○郷土の歴史調査 ○愛校作業 ○高齢者との交流	郷土の伝統行事等への参加 ○港祭り ○六月灯 ○十五夜 ○八朔太鼓踊り ○九月踊り ○柱松 ○敬老会 ○霜月祭り ○クセンボ 地域子ども会活動 ○熊野神社の清掃 ○凧あげ大会 ○餅つき大会 ○筍採り

第１図　三島小中学校における郷土教育のおもな活動

（学校提供資料より引用）

２点目の観光に関する学習としては，特色ある教育活動として取り組んでいる子どもガイドの育成に関連した観光 PR のための調べ学習において，学校と地域が関わっているということである。

３点目の伝統行事が「地域への参加」の中核をなすと考えられる。伝統行事においては，例えば中学生は八朔踊りや九月踊りなどといったものに参加する。また，これらの伝統行事に関する調べ学習を行う際などにも地域住民からお話を伺うこと等によって関わっている。

Ⅲ．地域学習に対する児童生徒の認識

ここでは，地域学習に対して児童生徒が持っている認識を明らかにする。

小学校第５学年から中学校第３学年の児童生徒を対象に質問紙調査を行った。第３表に質問紙に回答した児童生徒の硫黄島での居住歴を示す。

質問紙では，まず地域学習で学んだ内容について，どれくらい学ぶことができたかを，「ぜんぜん学ぶことができなかった」，「あまり学ぶことができなかった」，「まあ学ぶことができた」，「とても学ぶことができた」の４件法で尋ねた。第４表にその結果を示した。

第３表　回答者の硫黄島居住歴

	居住歴
A	１年未満
B	１年以上３年未満
C	１年以上３年未満
D	３年以上５年未満
E	３年以上５年未満
F	10 年以上

（筆者作成）

第４表　地域学習で学んだ内容[5)]

	自然	仕事（産業）	くらし	防災	歴史
A	4	3	3	4	3
B	3	2	3	4	4
C	3	2	3	4	4
D	4	2	3	2	4
E	4	3	3	3	3
F	4	3	2	3	4
平均	3.67	2.50	2.83	3.33	3.67

その他記述：B（伝統文化），D（行事等），E（椿油をしぼるまで。），F（伝統行事）

（筆者作成）

学んだ内容について項目に設定したものは，社会科副読本『わたしたちの三島村』に見られる内容である。第５表に示した『わたしたちの三島村』の章構成から，主として自然，仕事（産業），くらし，防災，歴史の５つの内容からなることが分かる。加えて，これらの５項目の他に，どのようなことについて学んだかを自由記述によって回答してもらった。

自然や歴史についてはすべての回答者が学ぶことができた（「まあ学ぶことができた」，「とても学ぶことができた」）としている。歴史に関しては，参加を含めた伝統行事への関わりが多いことから，児童生徒はこの中で学ぶことができたと考えているのではないだろうか。

第５表　副読本『わたしたちの三島村』章構成

一　わたしたちのすんでいる三島村	1　わたしたちの校区
	2　三島村のようす（（1）村ぜんたいの様子／（2）竹島の様子／（3）硫黄島の様子／（4）黒島の様子）
	3　三島村のいろいろなしせつ（（1）村役場／（2）役場の出張所／（3）三島村開発総合センター／（4）しんりょう所／（5）ヘリポートと飛行場）
二　三島村の人々のしごととくらし	1　三島村のしごとのようす（（1）商店がいの働き：①三島村の商店のようす，②鹿児島市のスーパーのようす／（2）のうぎょうのようす：①米づくり，②さつまもづくりと野さいづくり／（3）ちくさん業のようす／（4）漁業のようす／（5）林業のようす／（6）たけのこ工場のしごとのようす／（7）りょかんみんしゅくの仕事のようす／（8）その他の仕事のようす）
三　くらしを守る	1　火事をふせぐ（（1）わたしたちの身をまもるためのせつび／（2）消ぼう団）
	2　事こをふせぐ
	3　風水がいをふせぐ
	4　安心してくらせる村に
四　住みよいくらしを支える	1　ごみのしまつと利用
	2　水道とわたしたちのくらし
五　かわってきた三島村	1　学校のむかしと今（（1）学校のうつりかわり／（2）100年ぐらい前の学校のようす／（3）50年ぐらい前の学校のようす）
	2　くらしのうつりかわり（（1）古い道具調べ／（2）おじいさんの話／（3）三島村のむかしさがし：①しせきやきねんひ，②行事やまつり／（4）三島村のうつりかわり：①三島村の人口，②船のうつりかわり）
	3　これからの三島村
	4　三島村のあゆみ（年表）

（三島村教育委員会（2004）より筆者作成）

仕事（産業），くらし，防災については「とても学ぶことができた」という回答が少

なく「あまり学ぶことができなかった」,「まあ学ぶことができた」が多くなっている。仕事（産業）については，教員と地域住民へのインタビューの発言に共通して産業が少ないということがあった。島での仕事（産業）の少なさ，すなわち学習内容の少なさがこのような結果につながっていると推察される。

次いで，以下の 5 項目について地域学習で行った活動を通して児童生徒がどう思ったかを,「ぜんぜんそう思わない」,「あまりそう思わない」,「まあそう思う」,「とてもそう思う」の 4 件法で尋ねた。その結果が第 6 表のようになった。

第 6 表　地域学習で行った活動を通して思ったこと[6)]

	地域についてよく知ることができた	地域の人についてよく知ることができた	自分も地域の一員だと感じることができた	地域のことが好きだと思うことができた	地域のことを大切にしようと思うことができた
A	4	3	4	3	4
B	3	3	2	4	4
C	3	3	3	4	4
D	4	4	4	4	4
E	4	3	4	4	4
F	3	4	4	4	4
平均	3.50	3.33	3.50	3.83	4.00

その他記述： B（いっしょに活動して楽しい），C（一緒に活動が楽しい），E（地域の人は優しいなと思った。）

（筆者作成）

児童生徒は居住歴等に関わらず地域学習での活動を通して，地域に対して概ね肯定的な感情を抱いている。

このような結果になった背景として，学校と地域との連携における，教員と住民との関わりの在り方があると考えられる。インタビューにおいて，いわゆる本土の普通の学校とは異なり，必ず先生自身が島民，すなわち学区に居住する地域住民であることから，学校が地域と一緒に物事に取り組むのが当たり前であるという意識を教員が持っているという発言があった。また地域の行事への先生方の関わりは，負担になっている部分もあるかもしれないという認識は教員，住民の双方から見られたものの，先生方はそれを苦に思われずに楽しく関わることができているということであった。

これについて住民はこのように協力してくださる先生方を「貴重な存在」であるとし，協力してもらえるからこそ「お互いさま」の気持ちから，地域としても学校に何かを返していかなければならないという思いが生じると発言していた。

この「お互いさま」の感覚を学校と地域が連携した地域学習を通じて，児童生徒も身につけているのではないだろうか。

Ⅳ．地域と連携した地域学習が持つ可能性と課題

本章では三島小中学校での地域学習における学校と地域の連携を事例に，これが持つ可能性と課題について考察する。

まず，可能性について 2 点指摘する。

第一に，学習効果の向上への期待である。地域と結びついたカリキュラムは「地域に対する愛着心や創造的な発想をいっそう生み出すことができ」，子どもたちが地域に参加することが，地域への貢献の姿勢等につながり，学ぶ意義や意欲が高まると指摘している[7)]。質問紙調査から，地域の人々との活動が児童生徒に肯定的に受け止められていること，そして地域への帰属意識や愛着も概ね高いことから，このような効果がもたらされていると考えられるだろう。

第二に，地域の社会教育・生涯学習への貢献である。学校と地域の連携における重要な課題の一つに，子どもたちの地域での活動を社会教育と関連させ，まちづくり・社会貢献に発展させることが挙げられている[8)]。

インタビューにおいて，学校側の地域との連携に対する認識として，学校の学習活動に地域を使う，生かすということではなく，連携が地域にとっても生涯学習の機会となり，エネルギーを与えるという意識を持っているという話があった。このように三島小中学校では，児童生徒が地域に参加し，地域の住民と関わる地域行事が生徒のみならず，住民にとっても学びの場になっている。

一方で課題は，学校と地域の住民が関わり合うための基盤の構築，学校と地域の関係の継続にある。

三島小中学校では，教員も含めて皆が島民であることが連携のための関係づくりに好影響を与えており，学校と地域が関わることが当然のこととなるような環境にある。しかし，これは離島ならではの特色といえるものであり，離島地域以外では教員と住民が結びつく必然性はなく，さらに地域住民どうしのつながりも希薄化している。このような状況下で，いかに連携のための関係づくりをしていくべきか，ということは大きな課題である。

また，学校と地域の関係の継続は，教員の異動に伴う課題である。これを乗り越える方法として「人材リスト・人材バンク」等による引継ぎが挙げられるが，この問題の解決には，単なる引継ぎだけでなく，学校と地域が互いに必要な時に協働できる信

頼関係の構築も併せて必要となってくるのではないだろうか。

Ⅴ．おわりに

本稿の目的は，地域と連携した地域学習が持つ可能性と課題を，三島小中学校を事例に明らかにすることであった。そして，可能性として，学習効果の向上，地域の社会教育・生涯学習への貢献の 2 点，課題として，学校と地域の連携のための関係づくり，およびその継続を指摘した。

課題として指摘した点に関して，コミュニティ・スクールや地域学校協働活動などと関連して学校と地域の関係づくりに関する議論が多くなされている。この中で，佐藤（2016）や露口（2018）はこれらがソーシャル・キャピタル（社会関係資本）[9] を醸成すると指摘している[10]。これは，換言すれば学校と地域とが連携・協働の活動を行うことによって，両者の間につながりが形成され，そしてそれが密になっていく，ということである。このようにコミュニティ・スクールや地域学校協働活動が，本稿において指摘した課題の解決策の一つになりうるかもしれない。しかし，本稿において指摘した課題は，地域学習やその他教科等の教育活動における連携にとどまらず，学校運営上の連携においてもみられる可能性はないだろうか。

地域学習のみならずよりよい授業づくり，学校づくり，そして地域づくりのためにこれらの解決策を考えることが求められる。以上を今後の課題としたい。

謝辞

本稿をまとめるにあたって，三島村教育委員会の皆様，三島小中学校の教職員，児童生徒の皆様，そして硫黄島の住民の皆様に大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

注

1）文部科学省（2008）『小学校学習指導要領解説 社会編』p.18-20.
2）玉井(2010)，玉井(2016).
3）三島村ホームページより。
4）学校提供資料より。
5）「ぜんぜん学ぶことができなかった」～「とても学ぶことができた」を１～４とした。また，平均は小数第３位を四捨五入した。
6）「ぜんぜんそう思わない」～「とてもそう思う」を１～４とした。また，平均は小数第３位を四捨五入した。
7）玉井(2002)，p.39.
8）玉井(2010)，p.44.

9）パットナム（2006）はソーシャル・キャピタルを「個人間のつながり，すなわち社会的ネットワーク，およびそこから生じる互酬性と信頼性の規範」と定義した（パットナム(2006)，p.14)。

10）佐藤（2016）は，コミュニティ・スクールの教育的側面として，学校のガバナンスの仕組み, およびソーシャル･キャピタルのための仕組みの 2 点を挙げている。また，露口（2018）は 2015 年中教審答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」において強調された「学校を核とした地域活性化」の基盤にソーシャル・キャピタルがあるとし，地域学校協働活動がこれを生み出すと指摘した。

文献

佐藤晴雄（2016）: コミュニティ・スクールの可能性. 月刊社会教育，**60**(2), pp. 27-38.

篠崎正典（2012）: 愛媛県松山市立野忽那小学校における社会科地域学習の意義――「人や地域とのかかわりあい」に基づく取り組み――. 井田仁康編『地域と教育―地域における教育の魅力―』，学文社，pp.63-73.

澁澤文隆（1998）:「身近な地域」を生かした日本の諸地域学習の授業改善. 社会科教育研究,（80），pp.9-20.

玉井康之（1998）: 地域と連携した学校教育課程の再編と学社融合の必要性. 北海道教育大学教科教育学研究図書編纂委員会編『子どもと地域　地域にひろがる教科教育を求めて』，東京書籍，pp.6-23.

玉井康之（2002）: 総合的な学習の時間をめぐる学校と地域の連携―教育経営の課題と方策―. 日本教育経営学会紀要，44，pp.33-42.

玉井康之（2010）: 保護者・地域との連携と学校の組織力. 日本教育経営学会紀要，**52**, pp.37-47.

露口健司（2018）: 地域とともにある学校の実現に向けて. 月刊社会教育, **62**（5）, pp.10-16.

三島村立三島小中学校ホームページ. http://www.mishimamura-sch.jp/mishimakko/（最終閲覧日：2019 年 8 月 5 日）

三島村ホームページ. http://mishimamura.com/（最終閲覧日：2019 年 8 月 5 日）

三島村教育委員会（2004）:『わたしたしの三島村』，三島村教育委員会.

文部科学省（2008）:『小学校学習指導要領解説　社会編』，東洋館出版社，139p.

パットナム, R. D.(2000)柴内康文訳（2006）:『孤独なボウリング――米国コミュニティの崩壊と再生』，柏書房, 689p.